

京あるき in 東京 2014

京都の大学による特別講座

【申込必要／受講無料】

世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」京都。

今回、京都の11大学・1団体が、「京あるき in 東京」のために特別講座を行います。

歴史や伝統、文化等、京都について深く学べる三日間です。

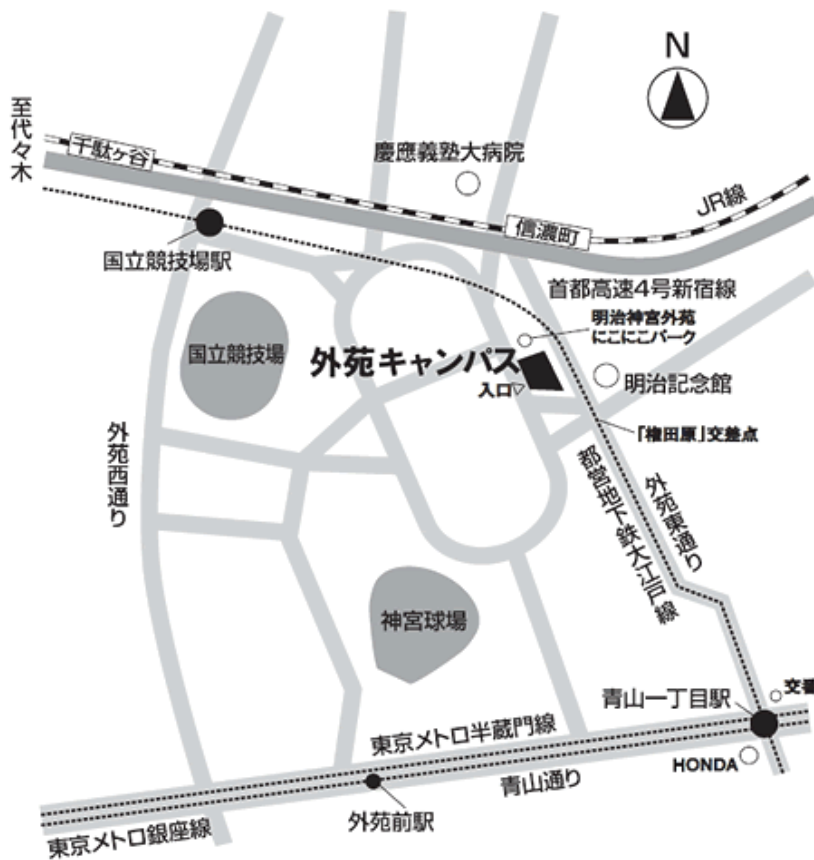
1講座からご参加いただけます。

- | | |
|--------|--|
| 【開催日】 | 平成26年2月14日（金）・15日（土）・16日（日） |
| 【会場】 | 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学外苑キャンパス
（東京都港区北青山1-7-15） |
| 【主催】 | 京都市、（公財）大学コンソーシアム京都 |
| 【定員】 | 各講座とも160名（先着順） |
| 【内容】 | 各講座の概要は中面をご覧ください。 |
| 【申込方法】 | WEB、FAX又は往復はがきでお申し込みください。
（詳しくは裏面をご覧ください） |

★立命館大学「桓武天皇と平安京」		14日(金) 12:30～14:00
	恒久の宮都として設えられた平城京を廃し、長岡京を経て平安京へと遷都を敢行した桓武天皇。その背景には、父・光仁天皇が天武系でなく天智系の血筋を引く皇族であったことや、母が渡来系の高野新笠であったこと等の事情がありました。桓武天皇が平安遷都に込めた意図について、多角的に考察したいと思います。 講師：本郷 真紹(立命館大学 総長特別補佐・文学部教授)	
★京都ノートルダム女子大学「京料理の魅力」		14日(金) 14:30～16:00
	京料理は、世界三大料理の一つとして誇ることのできる日本料理の基盤であり、「新鮮な食材」「繊細なわび・さびのしつらえと食器」「美的感覚を磨き抜いた板前の技」によって作りあげられています。そして、その根底には京都の美しい四季が醸し出す季節感また軟水の存在があります。本講座では、これらの特徴を持つ京料理の魅力を紐解きます。 講師：米田 泰子(京都ノートルダム女子大学 生活福祉文化学部教授)	
★京都華頂大学「京都の「和食」文化とアジアモンスーン圏の食ーふなずしは稲作文化圏の象徴ー」		14日(金) 16:30～18:00
	京都の食は、「和食」の真髄として、魅力あふれるものです。お米を主食とするアジアモンスーン圏には、魚をお米で発酵させた「なれずし」がありますが、「ふなずし」はその一種で、この文化圏の象徴的な存在です。京都の和食文化は、アジアモンスーン圏の中で、最も完成された特徴を持ち、栄養バランスもよく、将来の健康食を示唆してくれると言えます。 講師：堀越 昌子(京都華頂大学 現代家政学部教授)	
★華頂短期大学「西洋人が見た戦国日本のおもてなし」		14日(金) 18:30～20:00
	2020年夏季オリンピック招致活動でアピールされた日本人の「おもてなしの心」。本講座では、1620年代にジョアン・ロドリゲスが著した『日本教会史』から、400年前の日本人のおもてなしはどのようなものであり、それを西洋人はどのように見ていたのかを紹介します。 講師：伊藤真昭(華頂短期大学 歴史文化学科教授)	
★大谷大学「都のすがた ～「洛中洛外図」と時代の転換～」		15日(土) 10:30～12:00
	『洛中洛外図』は、応仁の乱後の京都の繁栄ぶりを描いた絵画の一群です。この絵画からは、そこに集う人々の生活と文化の諸相、四季が織りなす自然の情景など、様々な物語を読みとることができます。本講座では、近世京都の再生の中に、王朝の都から都市民衆の都への変容、そして、時代の終焉と創成の歴史について考えます。 講師：平野 寿則(大谷大学 文学部歴史学科准教授・大谷大学博物館学芸員)	
★京都大学「京の文化と景観を支えてきた竹を考える」		15日(土) 12:30～14:00
	京文化を考えると、竹は欠かせない植物です。日本文化を代表する茶道や華道は、竹なしには語れません。竹は、筍料理や笹の葉を用いた食文化や京町屋に見られる建築文化だけではなく、景観を形成する材料としても重要です。本講座では、京都の文化、景観を支えてきた竹をテーマに、お話しします。 講師：柴田 昌三(京都大学 地球環境学堂教授)	
★龍谷大学「京都が考える和食の未来戦略 ～伝統的なダシのあじわいと次世代の京料理～」		15日(土) 14:30～16:00
	飽食と言われて久しい現代の日本。海外からの輸入で食材も豊富になり、パンやパスタなどに加えて、離乳食も洋食になっています。伝統的な食の意義とは何でしょうか？和食の継承？本講座では京都の料理人による様々な取組を紹介しながら、和食の未来について考えたいと思います。 講師：山崎 英恵(龍谷大学 法学部准教授・農学部※食品栄養学科就任予定) ※2014年認可申請予定	

★京都・大学ミュージアム連携 「大学は宝箱！～京都・大学ミュージアム連携のおもしろさ～」 15日(土) 16:30～18:00	
	平成23年度に、京都市内外14大学15ミュージアムが協働で立ち上げた「京都・大学ミュージアム連携」。これまでに開催してきた事業を紹介しつつ、大学ミュージアム収蔵資料の多彩さやそのおもしろさ、大学におけるミュージアムの役割、それらが連携することの意義や効果についてお話しします。 講師：並木 誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長, 京都・大学ミュージアム連携実行委員会委員長）
★京都造形芸術大学 「美しい極み ～宮廷が育んだ平安仏画の世界～」 15日(土) 18:30～20:00	
	仏画というと、黒ずんだ抹茶臭いものというイメージをお持ちの方もおられるかもしれません。しかし、平安時代に制作された仏画は、最高の顔料(絵具)を用い、金銀をふんだんに使った装飾を施すなど、贅を尽くし、技を尽くした日本絵画の最高峰を示すものでした。それは、仏教の教えの中で生まれ、平安貴族たちの美意識によって育てられたものともいえます。本講座では、平安仏画と宮廷の関係をたどりながら、その美しい世界を堪能したいと思います。 講師：栗本 徳子(京都造形芸術大学 芸術学部教授)
★京都橘大学 「江戸時代の京都と公家の暮らし」 16日(日) 10:30～12:00	
	江戸時代の公家は、内裏周辺に広がる公家町と呼ばれる地区やその周辺に居住していました。しかし、公家町は、「いつ、どのように形成されたのか」「公家は如何なる生活を営んでいたのか」については、ほとんど明らかにされていません。本講座では、公家町の成立過程と、京都における公家の生活についてお話ししたいと思います。 講師：登谷 伸宏(京都橘大学 文学部歴史遺産学科助教)
★京都産業大学 「京都大原勝林院の歴史」 16日(日) 13:00～14:30	
	勝林院は、大原の里に建立された天台宗の寺院であり、声明の道場です。文治2年(1186)には、浄土宗の法然が他宗と討論した大原問答が行われました。寂源の中興より一千年という節目を迎え、平成24・25年に行われた京都産業大学による勝林院本尊の調査では、新たな発見がありました。本講座では、その成果を紹介するとともに、勝林院の歴史と変遷を振り返ります。 講師：鈴木 久男(京都産業大学 文化学部教授)
★京都市立芸術大学 「京観世(きょうかんぜ) ～謡(うたい)の文化」 16日(日) 15:00～16:30	
	能楽の台本をうたう謡(うたい)は、かつては、気軽に取り組むことができる娯楽の1つでした。京都でも、謡は、庶民的な活動として広く行われ、独自の発展をとげました。そして、その謡は「京観世」とも呼ばれ、やがて失われていきました。本講座では、かつての「京観世」の場、担い手、独自のうたい方、文化的役割について概観します。(協力：(株)鶴屋吉信) 講師：藤田 隆則(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター教授)

【会場のご案内】



【アクセス】

■JR 総武線「信濃町駅」より

改札を左折、徒歩約5分

■東京メトロ半蔵門線・銀座線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目駅」より、

0番出口、徒歩約10分

～ 大学講座のお申し込み～

- WEBでのお申し込み：<http://www.kyoaruki.jp> にアクセスして申し込みページからご応募ください。
- FAX・往復はがきでのお申し込み：①郵便番号・住所②氏名(ふりがな)③電話番号④FAXでお申込みの方はFAX番号⑤受講を希望する講座名を明記の上、下記にお送りください。

〒104-0061 東京都中央区銀座1-27-12 Cabinet. 7F

京あるき in 東京2014事務局

「京あるき in 東京2014」事務局：FAX 03-3561-9278

* 定員になり次第、締め切らせていただきます。2月1日(土)以降、お申込みいただいた方法により受講のお知らせを送付します。

* 個人情報は、本講座の運営以外には使用しません。

～ お問い合わせ ～

○ 京あるき in 東京2014」事務局：TEL 03-3561-9278 (平日10:00～17:00)

e-mail: info@kyoaruki.jp